

令和2年度教育事業 羽咋市教育委員会連携事業
「HAKUI キッズイングリッシュキャンプ」報告

1 趣旨

令和2年度から全面実施の学習指導要領では、小学校で英語授業が実施されている。これは急速なグローバル化に伴い、外国語によるコミュニケーション能力が様々な場面で必要となるからである。また、日本企業の人手不足に伴う外国人労働者の増加、外国人観光客の増加、海外市場への進出の加速化など、グローバル人材の育成・確保が進められている。このような社会情勢に対する試みとして、施設の特色や強みを活かしたプログラムを提供し、体験活動を通じた異文化理解や外国語への興味を推進していきたい。そのためにも、英語での体験活動を通して、その楽しさを感じるとともに、子供たちの頑張りを認めたり、仲間とのコミュニケーションを図ったりする機会を大切にしていきたい。

2 ねらい

国際交流員、ボランティアスタッフ、仲間との交流を通じた体験活動を通して、英語による基本的な表現に慣れ親しみながら積極的にコミュニケーションを図る素地を養いたい。また、様々な国の文化紹介や国際交流員との触れ合いによる異文化理解を通して、グローバル意識を高めることにつなげていきたい。これらの体験が児童にとって、それぞれの活動のねらいに迫る達成感や満足感を味わうことに繋がり、何事にも前向きに考える児童の育成を図っていききたい。

3 日程・内容

(1) 期日・参加者等

期日	学校名	児童数	国際交流員等	ボランティアスタッフ
①9月10日(木)～11日(金)	瑞穂小学校 5,6年	48名	5名	18名
②9月14日(月)～15日(火)	羽咋小学校 6年	66名	6名	15名
③9月16日(水)～17日(木)	粟ノ保小学校 5,6年 西北台小学校 5,6年	54名	5名	10名
④9月17日(木)～18日(金)	羽咋小学校 5年	54名	5名	10名
⑤9月29日(火)～30日(水)	邑知小学校 5,6年 余喜小学校 5,6年	67名	6名	9名

(2) 活動内容

1日目(日帰り)		2日目(日帰り)	
活動名	内容	活動名	内容
オープニング セレモニー	「Stand straight(気をつけ)」「bow(礼)」。司会の児童の英語で始まった。その後の所長の歓迎の言葉、代表児童の決意など、すべて英語を使って挨拶をした。	ガパオライス作り 【写真3】	異文化理解としてタイの郷土料理であるガパオライスを野外炊飯した。最初に食材や道具などの英語を確認し、料理方法は子供たちがボランティアに英語で「Please tell me how to cook～」と聞くように指示し、英語でのコミュニケーションを使う場を設けた。
イングリッシュ オリエンテー リング 【写真1】	基本的には説明は英語で行い、注意事項については日本語で行った。グループごとにボランティアスタッフが付き、安全指導や課題解決の手助けを行った。子供たちの課題は以下の3つである。 ・20枚の写真のポイントを探す(チェックポイント) ・5か所で国際交流員と英会話を行う(トークポイント) ・7つのアルファベットを集め、並び替えて英単語をつくる	クロージング セレモニー 【写真4】	子供たち同士で2日間の振り返りを発表し合った。また、国際交流員からの感想を話してもらった。
世界の文化 紹介 【写真2】	最初の20分間は、国際交流員がそれぞれの自国の文化や名所をスクリーンに投影しながら英語で紹介した。その後、子供たちが国際交流員や仲間たちに日本の文化を英語で紹介した。発表会では、発表するグループと聞くグループを半分に分け、ポスターセッション形式で行った。	 【写真1】	 【写真2】
		 【写真3】	 【写真4】

(3) 事業の実施にあたって工夫したこと

<他団体との連携>

①羽咋市教育委員会

昨年度から連携協定を結んでおり、事業の内容等を年度初めから打ち合わせを行っている。また、市内小学校の実施日決定やALTの依頼などの協力をいただいた。

②近隣の大学

金沢学院大学、北陸大学、北陸学院大学の教員を通して、ボランティアスタッフの派遣を依頼した。各回9名以上の参加があり、「子供たちの傍に居てくれて安心だったし、学習の支援をしてくれて助かった」という小学校の先生方の意見が多かった。また、英語を学ぶ大学生が大半で、子供たちに積極的に英語で話しかけていた。

③小学校との打ち合わせ

7月末から8月末にかけて、各小学校の担当の先生方とプログラムの内容やタイムスケジュールなどについて打ち合わせを行った。各学校の実態や要望を聞きながら、活動プログラムを決めていった。

<新型コロナウイルス感染症対策>

- ・1泊2日のプログラムを日帰り2日のプログラムで実施した。
- ・グループ活動を5～6名程度にして、密接になる活動プログラムをできるだけ避けた。
- ・参加児童のマスク着用、手洗い、手指消毒等の徹底を行った。
- ・ボランティアスタッフに対して事前に行動履歴を調査し、毎朝検温を行った。

<他の教育施設の参考となる事例>

①使ってほしい表現15【写真5】

このキャンプの活動ごとに「使ってほしい表現15」を決め、事前の子供たちに対して、発音の仕方を練習し、具体的な使い方・場面を指導した。子供たちはもちろん、指導者やボランティアスタッフも表現を意識しながら英語を使うことができた。また、「使ってほしい表現15」を研修室に掲示したり、ワークシートに掲載したりして、子供たちが常に使えるように工夫した。



【写真5】

②タブレット端末の利用【写真6】

英語活動においてICT機器を効果的に活用するために各グループに1台ずつタブレット端末を貸し出した。世界の文化紹介では、自分たちが発表するテーマの情報を集める子供たちが多かった。



【写真6】

③振り返りの場【写真7】

活動の終わりには必ず振り返りの時間を設け、(1)自己評価を書く(ワークシート)(2)グループで意見を共有するという流れをつくることで、学びの定着を図ることができた。



【写真7】

4 成果と課題

(1) アンケート結果より

①参加者の評価(アンケートより)

本事業では国際交流に対する意識を調査するために、右図のような「外向き志向に関するアンケート」を全参加者を対象に実施した。参加者の意識の変容を確認するために、事業前・事業後の2回実施した。

事前と事後の比較をする際には、参加した児童の評価点をもとに、1要因被験者内分散分析を行った。結果については、【表1】【グラフ1】の通りである。

No.	質問	とても思う	思う	少し思う	あまり思わない	思わない	まったく思わない
1	英語(外国語)に興味がありますか	6	5	4	3	2	1
2	外国の文化に興味がありますか	6	5	4	3	2	1
3	日本の文化をさらに学びたいと思いますか	6	5	4	3	2	1
4	このキャンプを通して、外国語を使ったコミュニケーション能力を向上させたいと思いますか	6	5	4	3	2	1
5	このキャンプを通して、集団生活における仲間とのコミュニケーション能力を向上させたいと思いますか	6	5	4	3	2	1
6	このキャンプを通して、視野を広げたい(多くの考えを参考にしたい)と思いますか?	6	5	4	3	2	1
7	日本人として世界の役に立ちたいと思いますか	6	5	4	3	2	1
8	これから交流する外国の人と将来、一緒に働いたり、交流したりしたいと思いますか	6	5	4	3	2	1
9	外国の人との交流を通して、自分の可能性を広げたい(自分をもっと高めたり、できることを増やしたりしたい、など)と思いますか	6	5	4	3	2	1

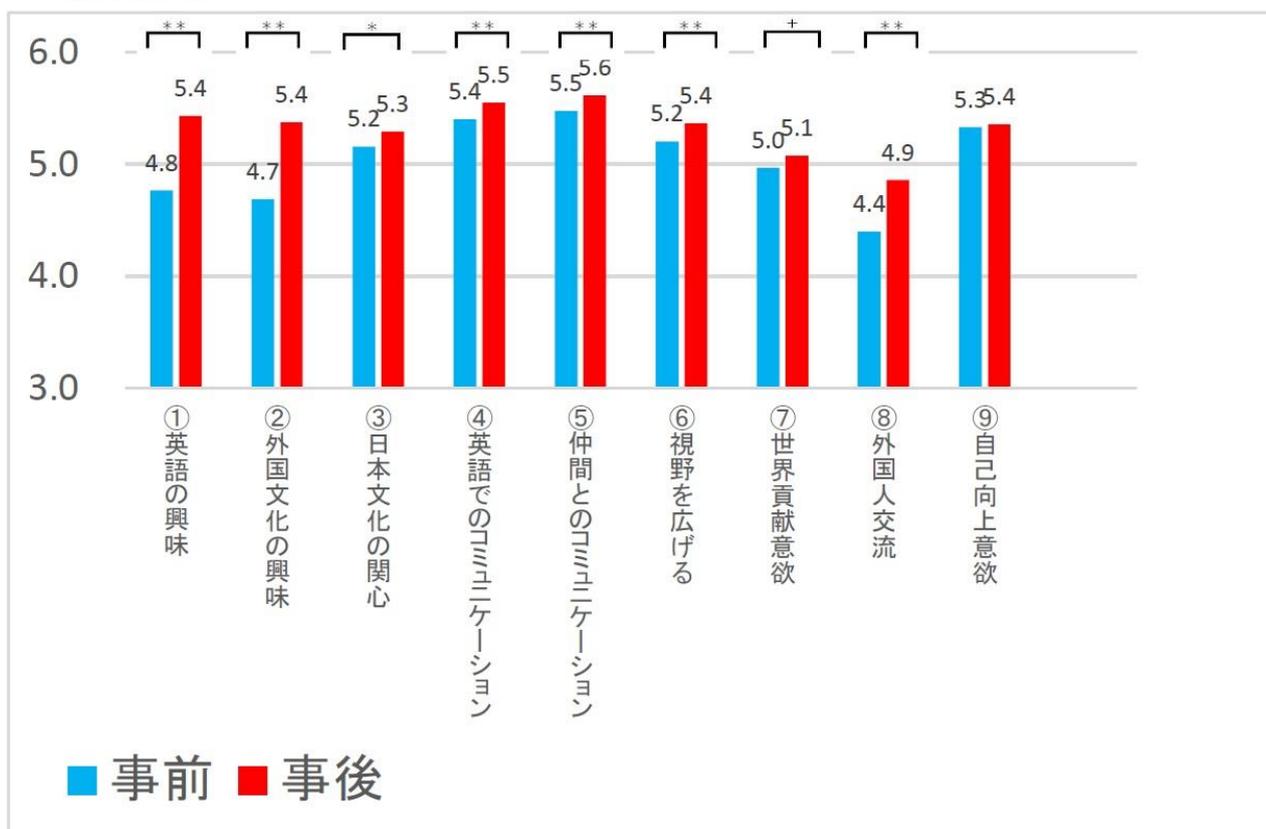
【表1】キャンプ前後の「外向き志向」に関するアンケート(羽咋市内小学校6校5、6年生)

1 要因被験者内分散分析(N=281)

	事業前		事業後		F	
	M	SD	M	SD		
①英語の興味	4.77	1.06	5.43	0.80	118.51	**
②外国文化の興味	4.69	1.17	5.37	0.80	118.04	**
③日本文化への関心	5.16	0.97	5.29	0.85	6.13	*
④英語のコミュニケーション能力の向上	5.40	0.92	5.55	0.75	9.36	**
⑤仲間とのコミュニケーション	5.47	0.85	5.61	0.73	8.17	**
⑥視野を広げる	5.20	0.96	5.36	0.82	8.71	**
⑦世界への貢献意欲	4.97	1.16	5.07	1.07	3.55	+
⑧外国人と交流することへの興味	4.40	1.33	4.86	1.11	51.53	**
⑨自己向上意欲	5.33	0.94	5.36	1.00	0.24	

+p<.10 *p<.05 **p<.01

【グラフ1】



1 要因被験者内分散分析から、事前から事後にかけて「外向き志向」における全ての項目において向上した。特に、①英語の興味、②外国文化の興味、④英語でのコミュニケーション、⑤仲間とのコミュニケーション、⑧外国人との交流の5項目において、1%水準の有意な差が認められた。

②、⑧については、本事業において母国が違う国際交流員がそれぞれの文化を紹介した「世界の文化紹介」やタイの郷土料理である「ガパオライス作り」を実施し、世界の文化に目を向ける活動を取り入れたことが、外国文化の興味を大きくした要因として考えられる。さらに、参加した国際交流員が親しみやすい雰囲気を醸し出し、子供たちに気軽に声をかけていたことが、子供たちの外国人に対する親近感を高めることに繋がったのだろう。

①、④、⑤については、「使ってほしい15の表現」を児童に提示し、英語を使う場面を意図的に設定したことで、英語によるコミュニケーションが増えたことが評価の向上に繋がったのだと考える。さらに、

全てのプログラムがグループ単位で活動できるように設定し、それぞれの班にボランティアスタッフを付けて意図的にコミュニケーションを促進させたことが、英語でのコミュニケーションや仲間とのコミュニケーションを増やす要因となったと考える。

②参加者の振り返りノートより

- ・ボランティアスタッフが使う英語が多くて、最初は何を言っているか分からなかったけれど、少しずつ分かるようになった。キャンプに来る前よりもたくさんの英語を使えるようになり、よかった。ボランティアスタッフは親切で親しみやすくて楽しかった。
- ・このキャンプで自分はとても成長できたと思う。なぜなら、いろいろな英文を自分で作ることができたからだ。普段のカタカナ語をつなげるだけで簡単にできた。また、外国の人と触れ合うことができ、とてもよい経験になった。これを機に外国に行って暮らしてみたいと思った。
- ・このキャンプで分かったことは「まねをしたり、挑戦して話しかけたりするだけで、たくさんの英語を学ぶことができる」ということだ。少しずつ英語を使ってみると、だんだん自信がついて、たくさんの英語を話せるようになった。これからは挑戦する気持ちを大切にして英語に取り組みたい。
- ・キャンプを終えて英語はおもしろいと思った。理由は、世界の文化紹介の時に英語で発表することが楽しかったからだ。最初は難しいと思っていたけれど、やっていくうちに日本語を英語に変えることがだんだんおもしろくなった。初めてのキャンプで英語が好きになった。
- ・この2日間は英語に親しみをもてたし、楽しいキャンプで、英語を好きになれたと思う。ぼくの将来の夢は英語が必要なので、このように1日英語を使う日を作ってもいいと思った。
- ・2日目のガパオライス作りでは、タイの料理を初めて食べたけれどおいしかった。意外と簡単にできたので、家でも家族のために作りたいと思った。

③参加校の先生方からの意見

○成果

- ・イングリッシュオリエンテーリングや文化紹介を通して、英語でのコミュニケーション能力や文法への理解につながった。
- ・国際交流員、ボランティアの人数が多く、子どもたちが英語で関わる機会が多くあった。
- ・英語を話す、聞く、書く場面がはっきりと決められていたので、それぞれの場面で英語を意識して使うことができた。

○課題

- ・ボランティアスタッフの中にキャンプのねらいを把握していない人がいた。
- ・ガパオライス作りは、大変楽しく取り組むことができたが、安全上の指導などは日本語でする必要がある。また、調理ではあまり英語を使う必要感がなかった。
- ・国際交流員やALTの方と子どもたちが活動以外に関わる場面はあまり多くなかった。国際交流員の皆さんが手持無沙汰な様子が見られた。

(2) 成果

- ・ほとんどの児童が「外国の文化や英語の興味が高まった」と回答し、今回の活動プログラムは児童の英語に対する興味を高めるとともに、「外向き志向」を強めるためには有効であったと言える。
- ・活動場面ごとに「使ってほしい表現」を設定したり、グループで英文の発表をしたりして意図的に英語を話す機会を多く作ることで、英語でのコミュニケーションを増し、英語に親しむことができた。
- ・学習指導要領の目標にある「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの言語活動を活動プログラムに組み込み、学校での授業として位置づけたことで、教科（外国語科）に関連付けた体験活動を実施することができた。
- ・事業前と事業後に国際交流員やボランティアスタッフと打ち合わせをして意見を出し合ったことで、活動プログラムの改善を進めることができた。

(3) 課題

- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、活動プログラムを急遽変更したり、感染症予防の対策をとったりして実施したが、今後も安心・安全に活動を進めるためにキャンプの内容や方法を吟味していく必要がある。
- ・学校との打ち合わせが十分でなかった。今後は、市内小学校のすべての担当者で内容を相談したり、学校の実態や特色を活かしたプログラムを考えたりするなど、早めに打ち合わせをして準備を進めていくことが必要である。